

第2学年6組 国語科学習指導案（略案）

指導者

1. 単元名 お話のつづきを書こう
教材名 「わにのおじいさんのたからもの」

3. 単元の見込み

【関心・意欲】

- ・「おにの子」が見つけた宝物について、感想をもちながら読もうとしている。

【読むこと】

- ・場面の移り変わりに応じて、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。

【書くこと】

- ・話の続きを想像して、文章を書くことができる。

【言語】

- ・登場人物の様子や気持ちを表す言葉を見つけることができる。

4. 指導計画（11時間）

次	時	学習内容・学習活動	◎指導・支援 ●評価
第一次 （見出す）	1	○本文を読み、「話の続きを書く」という見通しを持つ。 ○初発の感想を書く。	◎自分の「たからもの」について考えさせてから、本文を読ませる。 ●初発の感想に、思ったことや疑問について書こうとしている。（関心・意欲）〈ノート〉
	2 3	○初発の感想を話し合い、物語の内容をつかむ。 ○場面分けをする。	◎登場人物の確認や話の流れに沿って板書をする ことで、あらすじをつかませる。 ●進んで自分の考えを発表したり、友だちの意見を聞いたりしようとしている。（関心・意欲）〈発表〉
	4	（一）わにのおじいさんとおにの子の人物柄を読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">わにのおじいさんとおにの子は、どんな出会いをしたのだろう。</div>	◎わにのおじいさんやおにの子の見た目や人柄が表れている言葉や文に注目させる。 ●わにのおじいさんやおにの子の出会い方や性格を本文から読みとることができる。（読むこと）〈ノート〉
第二次 （調べる） （深める）	5	（二）はっばをかけているときのおにの子の気持ちを読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">なぜおにの子は、わにのおじいさんに はっばをかけたのだろう。</div>	◎時間の経過が分かる言葉に注目させ、おにの子の優しさに気づかせる。 ●おにの子したことや考えたことを読み取ることができる。（読むこと）〈ノート〉
	6	（三）わにのおじいさんの思いを読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">わにのおじいさんは、なぜおにの子にたからものかくしばしょを 教えたのだろう。</div>	◎前時を振り返りながら、おにの子がどんな子なのか確認させる。 ●わにのおじいさんとおにの子の会話から、わにのおじいさんの気持ちを想像することができる。（読むこと）〈ノート〉
	7	（四）たらかのかくし場所まで行くおにの子の様子や気持ちを読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">おにの子は、どのようにしてたからのかくしばしょまで 行ったのだろう。</div>	◎言葉一つひとつをていねに取り上げ、どんな道を通っていったのかを想像させる。 ●おにの子のしたことから、たからのかくし場所までの苦労を想像することができる。（読むこと）〈ノート〉
	8 本時	（四）夕やけを見ているときのおにの子の気持ちを読む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">おにの子は、たからものを見つけられたのだろうか。</div>	◎おにの子の様子から、気持ちを想像させる。 ◎「わにのおじいさんのたからもの」と「おにの子のたからもの」を比べさせる。 ●夕やけをたからものだと思うおにの子の気持ちを想像することができる。（読むこと）〈ノート〉

第三次 (まとめあげる)	9	○ おにの子とわにのおじいさんの会話を想像させる。 ○ 話の続きを想像して文章を書く。	◎ 「もし、おにの子が、わにのおじいさんのところへもどったとしたら」という仮定の条件を与えて想像させる。
	10	○ 小グループで読み合い、文章の推敲をする。 ○ 清書を書く。	◎ 誤字、脱字、かぎかっこの使い方などを子どもたち同士でチェックし合い、文章を修正させる。
	11	○ 小グループで読み合う。	● 話の続きを、本編から連続しているように書いている。(書くこと) 〈ノート〉

5. 本時の指導 (8 / 11 時間)

(1) 本時の目標

○ タヤけをたからものだと思うおにの子の気持ちを想像することができる。(読むこと)

過程	時配	学習内容と学習活動	○指導・支援 ◇評価
見出す	3	1. 前時までの学習を振り返る。 2. 学習問題をつかむ。	○ 前時までに学習した場面の様子を想起させる。
調べる	10	3. (四) の場面を音読する。 4. おにの子は、たからものを見つけることができたかどうか、ノートに考えを書く。 ○ 見つけられなかった。 <u>わにのおじいさんの宝物</u> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ わにのおじいさんをころしてまでも とろうとされるもの ・ かくしておけるもの ・ うめてあるもの。 ・ はこの中に入っているもの ・ こうかなもの </div>	○ 根拠となる言葉を本文から探させながら、わけも書かせる。

		<p>きりたつようながけの岩場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あぶない ・だれも行かないような場所でしかみることができない夕やけ <p>○見つけられなかった</p> <p><u>おにの子が見つけたたからもの</u></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・せかいじゅうでいちばんすてきな夕やけ ・口では言えないほどのうつくしい夕やけ ・さわることのできないもの ・今日しか見られないもの </div> <p>5. おにの子は、どのようにして夕やけを見ていたのか話し合う。</p> <p>目をまるくして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・びっくりした ・きれいすぎる <p>口では言えないほど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉では言い表せないほど美しい。 <p>思わず、ぼうしをとった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕やけに見とれてしまった。 ・角が見えてしまっていることも忘れてしまうほど、美しい夕やけ <p>いつまでも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずっと見ていたい。 	<p>○たからのかくし場所が、「きりたつようながけの上の岩場」であり、困難な場所にあることを確認させる。</p> <p>○おにの子が見つけたたからものは「夕やけ」であることをおさえる。</p> <p>○どんな夕やけだったのか、本文の言葉から想像を広げさせる。</p> <p>○夕やけを見るおにの子の様子にも着目させながら、おにの子が感動している様子を味わわせる。</p> <p>○なぜ、ぼうしをとったのかを考えさせる。</p> <p>○前時の、たからものの場所までたどりつくまでの苦労を振りかえさせる。</p>
--	--	---	---

深める

15

<p>まとめ あげる</p>	<p>1 5</p>	<p>6. 夕やけを見ているおにの子の気持ちについて考え、発表する。</p> <div data-bbox="443 324 954 766" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> • こんなにうつくしい夕やけをはじめて見たな。 • とってもきれいだな。 • がんばってここまで来たから見る事ができたんだな。 • おじいさん、すてきなたからものをありがとう </div>	<p>○おにの子になりきって、夕やけを見ているときのおにの子の気持ちをワークシートに書かせる。</p> <p>◇夕やけをたからものだと思うおにの子の気持ちを想像することができる。(読むこと)</p>
	<p>2</p>	<p>7. 「お話の続きを想像して書く」という次時の学習のめあてを確認する。</p>	<p>○「この後おにの子はどうするのだろう。」となげかけ、お話の続きが書きたくなるように意欲を持たせる。</p>

